

謹賀新年

新年明けましておめでとう
ございます。市民の皆さまにおかれましては、気持ちも新たに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年また、九州北部豪雨や大型台風など各地で大きな自然災害に見舞われ、備えの大事さをあらためて痛感させられました。本市では熊本地震からの「復興元年」と位置付け、一日も早い復旧・復興に全力を傾注した一年でした。復興はまだ道半ばではありますが、着実に前へ進んできていると感じています。これも市民の皆さまのご理解と団結心のたまものと心より感謝申し上げます。

昨年は「ピンチをチャンスに！」を合言葉に、明るい希望を目指すとの意気込みで「復光」を標榜しましたが、実際にこれを後押しするよううれしいニュースが続きました。

特に、菊池高校野球部・菊池農業高校馬術部・菊池女子高校剣道部の市内3高校の大活躍は市民を大いに勇気づけました。懸案の泗水田島工業団地が一挙に完売となった他、農業面では菊池川流域の米づくりの歴史が日本遺産に認定されました。さらに米食味コンクール国際大

会において菊池米が3年連続の金賞を受賞し「日本一の米」の栄誉に輝くなど、復興への大きな足掛かりとなる明るい出来事が続きました。また、新庁舎や生涯学習センターが完成し、念願の図書館がオープンした新しい節目の年となりました。

今年には泗水孔子公園の改修も完成し、市民広場の整備にも着手します。市民の癒やしの場にすると同時に、観光客などの交流人口増にもつなげる狙いです。春ごろには菊池溪谷が2年ぶりに再開の予定です。これを契機に多くのお客さまを本市に引き込み、経済の活性化に着手につなげていきたいと思っております。その一方で、全国平均より過大な傾向にある公共施設などについては、引き続き見直しを進め、経費の削減や有効活用に向けた取組みを進めます。

つまり、今年の基本の柱は「収入を増やし支出を節約する」ことです。次世代の将来に向けて、いわば「財政面の健康づくり・体力アップ」を進めます。

もう一つの柱は徹底した「市民の健康づくり」です。医療費の抑制につながるだけではなく、真の幸福の基本は健康にあるからです。その健康とは心身

両面での健康を指します。歩きを中心とした身体の健康づくりに加え、生涯学習センター（図書館・公民館）などの企画を通じ、生きがいに満ちた心豊かな暮らしづくりに力を注いで行きたいと思っております。

「復光」を目指した昨年は幾つかの光が到来しました。今年にかける思いは「復幸」です。皆さまにとりまして、本年が健康で安全で、笑顔と幸せにあふれた年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

平成30年 元旦
菊池市長 江頭 実



「復幸」を目指して
～真の幸福の基本は健康から～

菊池市長 江頭 実

新年明けましておめでとう
ございます。平成30年の新春を新たな気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、熊本地震からの復興を具体的に進めた年でした。被災された方や、各地区の区長さん方と共に全庁をあげて努力されましたことについて、議会としまして心より御礼申し上げます。

しかしながら、みなし仮設住宅で年越しされた90余世帯の方や、いまだ入谷できない菊池溪谷など、地震の爪痕は各所に残っており、その復旧は議会にとっても新しい年に引き継がれた最重要課題と捉えています。昨年には3月の庁舎の増築部分に続き、議場を含む改修部分として図書館と公民館を併せ持つ生涯学習センターの落成を見ました。庁舎改修中の6月、9月の臨時の議場での定例会から12月定例会はリニューアルされた議場で行うことができ、議場独特の厳粛な雰囲気にあたたかみのある引き締まる思いがしました。

さて、少子化・高齢化そして人口減少については語り尽くされた感もありますが、本市議会もこの課題に正面から取り組まなければなりません。平成28年

度決算によりますと、この5年間で菊池市の人口が約2千人の減、世帯数が240の増、一世帯2.9人という数字が出ています。この数字から家庭や地域社会の変化を考えると、市議会のあり方も見えてきそうです。

政治や行政は、常に現実の後追いともいわれます。子育て・医療・介護などで増加する支出は、道路や公共施設の維持管理費用を減らし、関係する市民の指摘を受けることとなります。

当然のことですが、限られた財源をどう配分するか議会の力量が問われます。今年、合併の成果の一つとして、竣工した新庁舎や生涯学習センターがより良く運営活用され、今までの市民サービスが行えるかも問われる年になります。行政機能の集中は、住む地域によって不公平が生じないよう最大限の配慮と工夫が求められます。将来を見据えて機能の集中を議決した議会の責任としても、市内全域に目を配りながら、より適切な公共施設やインフラの整備、統廃合に臨まなくてはなりません。

今年には選挙権が18歳以上となって初めての市議会議員の選挙の年です。昨年の議会報告会

では議員定数や議員報酬についてご批判もありました。議会や議員の市民に対する説明不足は否めませんが、市民からの厳しい目も再確認しました。幸い、昨年は児童・生徒の皆さんの議会傍聴も増えました。開かれた議会を目指している立場としても大変うれしく、審議にも力が入っており、御礼を申し上げます。家庭や地域の変化と共に変わる市民からの要望に行政はどこまで対応できるのか、議会をあげて審議を深めなければならぬと思っております。

平成30年 元旦
菊池市議会議員 森 清孝

将来に目を向けた
審議を目指して

菊池市議会議員 森 清孝

